

駒澤大学 vs 中央大学

11月2日(日)
11:30K.O.
中央G

ここのところ調子のよかった駒大だが、前節の筑波大戦は0-2の敗戦。

「悔しい。相手は降格争い中で、自分たちもインカレ出場をかけているのでいいゲームができるかと思ったが、うちのほうが徹底的にやれなかった」(秋田浩一監督)

相手(5本)の倍以上となる、13本のシュートを放ちながらもノーゴール。

「前半は外にボールを出そうとして、前の選手もよく走っていてよかった。コーナーキックなど何度かチャンスがあったので、それが入っていれば違う展開にできたと思うが、それを破れないところが弱さ」(秋田監督)

というように、チャンスで決めきれなかった。

しかも、試合終了間際の失点は、FKの流れからのものだった。インカレ出場(5位以内)を目指して、残り3試合、厳しい戦いが続く。

11位とまだ降格圏内の中大だが、10位・筑波大との勝点差はわずかに1。最終節ではその筑波大との対戦もあるだけに、望みをつなげるためにも勝ち続けたい。

前節の東国大は1-0の勝利を収めた。試合内容自体は苦しいものだったが、

「順位的に直接対決ということだったため、一つの大事

な試合だった。失点をゼロに抑えることができたのはよかった。最後に疲れてフリーにしてしまう部分が出てきたのは反省材料」(佐藤健監督)

それでも不安定だった守備を見直し、そこからいいゲームができていくだけに継続できるかどうか。

「われわれにとって残りの3試合は、すべてが強豪。すべてを打ち破っていかなくてはならない」(佐藤監督)

出場停止:平野篤志(駒大) 警告3回:川岸祐輔、平尾優頼、伊藤慎人、斎藤純平、柳川剛輝(以上駒大)、岡崎亮平(中大)

前期の対戦:駒大2-1(シュート数9-3)中大

駒大			中大		
16. 柳川	11. 小牧		11. 古橋	6. 鴨池	
5. 伊藤				5. 岡崎	
	6. 唐木沢			8. 三島	
21. 積田	14. 中村	12. 菊池	9. 内田	10. 砂川	1. 前田
	10. 板倉			17. 飯干	
4. 平尾				12. 小出	
13. 大木	26. 溝口		23. 翁長		2. 懸

早稲田大学 vs 明治大学

11月2日(日)
13:50K.O.
中大G

前節、順大に引き分けて優勝争いから大きく後退してしまった早大。今節の結果によっては、優勝の可能性が完全に消滅するだけに大事な一戦だ。

「一人ひとり戦う姿勢を持って相手にプレッシャーを掛けて、ゴールに向かい続けて、少なかったが決定機を作り出していった」(古賀聡監督)

しかし、そこでゴールを奪うことができず、

「中盤におけるボールのせめぎ合いの中で球際で負けてしまい、ボールを持っていかれて相手にチャンスを与えてしまった。その辺は修正しなければならない。それ以上に決定機は何度かあったのに、それを決めきれないのが今の課題」(古賀監督)

チャンスをモノにするしたたかさがなければ、優勝への道のりはとどえてしまう。

「まだまだ優勝することはあきらめていない。そのために勝点3は絶対に必要。より自分たちの強みに徹底的に磨きをかけて、次の試合に臨みたい」(古賀監督)

後期いまだ無敗(7勝1分)の明大。前節でついに首位・順大に勝点1ポイント差まで迫っただけに、ここで一気に逆転したいところだ。

前節は残留争いに苦しむ桐蔭大との一戦だったが、1

-0でしっかりと勝利を収めた。試合内容だが、「非常に厳しいゲームになったが、勝てたことがすべてでよかった」(栗田大輔助監督)

というように修正しなければいけない点も多いが、リーグ終盤は何よりも結果が大事。ただ、

「後半に入って運動量が落ちた。桐蔭大が素晴らしいサッカーを展開してきて、受け身になってしまった。そこでリズムを取り戻せるようにしたい」(栗田助監督)

警告3回:近藤洋史、堀田稜(以上早大)、小谷光毅(明大)

前期の対戦:早大1-2(シュート数6-8)明大

早大		明大	
12. 八角	8. 堀田	29. 土居	2. 室屋
4. 金沢	14. 山内	10. 和泉	3. 山越
	10. 近藤洋		7. 差波
1. 松澤			1. 三浦
	2. 奥山		18. 苅部
3. 田中	9. 宮本	11. 藤本	5. 松藤
5. 新井	7. 近藤貴	8. 石原	6. 高橋

※布陣は前節を参考にした予想メンバー

JR東日本カップ 2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.26-NO.20 Division1



編集:加茂郁実 発行:(一財)関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ

順大が首位キープも、勝点1差で追う明大! 優勝の行方は!?

今節を含めて残り3試合となった「JR東日本カップ2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦」。優勝争い、インカレ出場権争い(5位以内+6位プレーオフ)、残留争いと、いずれもデッドヒートが繰り返されている。

13節から首位を走っている順大だが、前節は4位・早大との上位対決。早大は負ければ優勝がかなり厳しくなる状況だったが、互いに譲らず0-0の引き分けに終わった。順大は首位をキープ。早大は順大に勝点6ポイント差と、厳しい状況に変わりはない。

2連勝と調子を上げてきた専大だったが、ここに来てさらにケガ人が続出。その中の国士大とのゲームは先制点を奪われる苦しい展開となったが、その後、逆転に成功。しかし、このまま試合が終了すると思われた後半45分に失点し、まさかの引き分け。首位・順大との勝点差は3ポイントのままだが、順位を一つ落として3位となった。

後期好調の明大は、残留争いに巻き込まれつつある桐蔭大とのゲーム。前半のアディショナルタイムにセットプレーから先制点を奪うと、後半も追加点こそなかったが危なげない戦いで1-0の勝利を収め、2位に浮上。順大との勝点差はついに1ポイントに縮まった。

やや元気がない慶大と流経大との試合は、互いに守備を重視するチームだけに固い試合運びとなり、0-0のスコアレスドローに終わった。インカレ出場権獲得に向けての戦いが続く順大は、残留争いにも必死の筑波大

得点ランキング

前澤	甲気(専大)	11点
藤本	佳希(明大)	10点
山根	視来(桐蔭大)	8点
平松	宗(国士大)	8点
佐野	翼(順大)	8点
進藤	誠司(国士大)	8点

アシストランキング

差波	優人(明大)	7アシスト
板倉	直紀(駒大)	6アシスト
仲川	輝人(専大)	6アシスト

との一戦。ここのところ調子を上げてきた筑波大が駒大に13本のシュートを打たれながら、5本のシュートで効率よく2ゴールを挙げて2-0の完封勝利。順位を10位に上げ、残留圏内に突入した。

残留を争い直接対決の東国大vs中大は、中大がCKから先制点を奪うと、その後はしっかりと守って1-0の勝利。ここのところ集中した守備を見せており、勝点を14に伸ばして残留へ望みをつなげている。一方、東国大は最下位に転落。1年での2部降格の可能性も出てきてしまった。

順大は2位・明大、3位・専大との直接対決を残している。果たして優勝旗を手にするのはどのチームになるのか!? 残留争いも含めて残り3試合、緊迫したゲームが続く!

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	順大	明大	専大	早大	国士大	慶大	駒大	流経大	桐蔭大	筑波大	中大	東国大	勝数	分数	負け	総得点	総失点	得失点差	勝点	
1	順大	0△0	2○1	0△0	2○1	0●1	1○0	3○1	4○1	2○0	2○1	2△2	12	5	2	34	16	18	41	
2	明大	0△0	1△1	2○1	2●3	0●2	2○0	0●1	4○1	3○1	1△1	1○0	12	4	3	34	17	17	40	
3	専大	1●2	1△1		3○0	2○0	2△2	4○1	3△3	1○0	1○0	2○1	11	5	3	48	24	24	38	
4	早大	0△0	1●2	0●3		3○1	2○0	3○1	1△1	0△0	1○0	2○1	10	5	4	24	14	10	35	
5	国士大	0△0	0△0	0●3		1○0	11月16日	2△2	0●1		2○0	1△1	7	7	5	32	28	4	28	
6	慶大	1●2	3○2	0●2	1●3		0△0	2△2	2○1	1○0	3○0	2○1	7	7	5	19	17	2	28	
7	駒大	0●1	2○0	2△2	0●2	0△0		2○0	0△0	3○0	1○0	0●2	7	7	5	19	17	2	28	
8	流経大	0●1	0●2	0●6	1●3	2△2	0●2		11月8日	0△0	2○0	2△2	0●2	0△0						
9	桐蔭大	1○0	3△3	3○5	2△2	1●2	江戸陸		11月15日	4○2	0●2	11月2日	3○2							
10	筑波大	1○3	1○0	1○2	1△1	1○2	0△0	0●3		1●2	0●1	1○0	4○3	5	5	9	21	30	-9	20
11	中大	2●3	0●1	1△1	1○0	4△4	0△0	ゼトエーオリブ		1●4	1○0	11月9日	11月1日							
12	東国大	1○4	1○4	2○5	0△0	0●1	0●3	2●3	2○1		3○1	1●3	2○0	5	1	13	23	40	-17	16
		0●2	0●1	1○0	1●3	BMW	0●2	2●4	4○1		11月1日	1●2	11月15日							
		0●2	1●3	0●2	0●1	0●3	0●1	3●4	1○0	1●3		0△0	1△1							
		2●3	0●1	0●1	1○0	3○1	2△2	2○0	0●1	古河		11月15日	11月8日							
		1●2	1△1	2●4	1●2	1●2	1●2	1●2	0●1	3○1	0△0		0●1							
		0●4	1●2	2●6	0●2	1●5	2○0	2○0	0●1	たつのこ	2○1	古河	1○0							
		2△2	0●1	0●2	0●2	1△1	2○0	0●1	3●4	0●2	1△1	1○0								
		3△3	0●3	2△2	0●1	1△1	0△0	2●3	古河	古河	たつのこ	0●1								

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

勇気は、努力がつくってくれる。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

桐蔭横浜大学 vs 筑波大学

11月1日(土)
11:30K.O.
古河

一時は残留争いから脱したかに見えた桐蔭大だったが、このところの下位チームの奮闘により、前節終了時点で11位・中大との勝点差はわずかに2。危険な状況に入ってきた。

前節は好調な明大との一戦。前半、押されながらも最後は体を張って守っていただけに、前半終了間際の失点が悔やまれる。結局、この1点が命取りとなり勝点3を失った。

「勝ち点がほしい状況の中、ポイントを取れなかったため非常に悔しい。最後まであきらめずに戦っていたと思う。終盤も明大の選手に臆することなく戦っていた点はよかった」(八城修監督)

決して悪いばかりの内容ではなかっただけに、何とも悔しい敗戦。課題は、「セットプレーからの失点が続いているので改善していきたい」(八城監督)

苦しい戦いが続いていた筑波大だが、前節は駒大を2-0で下し、順位を10位に上げて残留圏内に突入。

「ピッチ状況、相手との関係で自分たちのやりたいサッカーができなかった」(小井土正亮ヘッドコーチ)
難しい状況でも必死にプレーし、勝点3を取った。

「ピッチに立った選手たちがファイトしてくれたのでよかった」(小井土ヘッドコーチ)

とはいえ、まだまだ勝ち続けなければならない状況。「球際の厳しさが必要。どちらがボールを制するか、一つひとつ気持ちを込めてやっていかないといけない。目の前の試合を、駒大戦のような一体感を持って戦えればいい」(小井土ヘッドコーチ)

出場停止：金子雄祐(桐蔭大)、西村洋平(筑波大)

警告3回：古澤慶太(桐蔭大)、片岡爽、若杉拓哉(以上筑波大)

前期の対戦：桐蔭大3-1(シュート数11-9)筑波大

桐蔭大		筑波大	
28. 中島	7. 山根	28. 吉川	6. 片岡
24. 時田	25. 鈴木		8. 早川
	6. 福島	17. 中野誠	18. 三宅
1. 土井		10. 中野嘉	1. 岩脇
	2. 田内		13. 齋藤
4. 古澤	11. 石川		7. 車屋
18. 佐々木	8. 山崎	9. 若杉	3. 三丸

順天堂大学 vs 国士舘大学

11月2日(日)
11:30K.O.
フクアリ

首位を走る順大だが、2位・明大との勝点差はわずかに1と追い上げられてきた。前節は4位・早大との直接対決だったが、

「負けずに勝点を取れたことはよかった。ここで負けていると残りの3試合に不安な材料が出てくるが、フルメンバーではなかったけれども、今までやってきたことは間違いではなかったことを証明できたと思う」(吉村雅文監督)

特に、無失点で終わられたことは、残り3試合に向けて大きな収穫だ。

「前半15分間はとてもよかった。その『守から攻』への確に移る頻度を上げ、90分間やれるチームにしないといけない。前半の途中から、ボールは取るけれどもつなげないことがあった。効果的なパスができず、ミスをしてまた取られることの繰り返しだった。『守から攻』のもうひとつ工夫が必要」(吉村監督)

守備の安定感は戻ってきただけに、優勝へ向けてはどうゴールを奪うかにかかってくる。

インカレ出場権獲得に向けて戦っている国士大。前節(専大戦)は先制点を奪いながら逆転される苦しい展開だったが、試合終了間際に値千金のゴールを決めて、何

とか勝点1をゲットした。

「相手のボールの保持に対して運動してなくて、どんどん前が遠くなってますます相手にボールを動かされてしまった。もう少しミスを恐れずにいかなければだめだと思う。われわれのいいところを自分たちでなくしてしまった」(細田監督)

このところ思いきりのいいプレーが影を潜めているだけに、もっと前への推進力を全体で押し出したい。

警告3回：佐野翼(順大)、海野智之、松本和樹、進藤誠司(以上国士大)

前期の対戦：順大2-1(シュート数8-7)国士大

順大		国士大	
2. 友澤	11. 米田	14. 佐々木	7. 橋
4. 谷奥		20. 山口	5. 仲島
	7. 内山		6. 海野
21. 大畑		9. 佐野	1. 小澤
	15. 青木		8. 松本
5. 新井	6. 長谷川涼	11. 平松	4. 今瀬
27. 毛利	19. 野田	28. 荒木	2. 藤寄

流通経済大学 vs 東京国際大学

11月1日(土)
13:50K.O.
古河

総理大臣杯で優勝し、すでにインカレの出場権を手に行っている流経大。前節の慶大とのゲームは互いにゴールを決めきれず、0-0のスコアレスドローに終わった。「勝ちたかったが、失点0だった。最低限の勝点1を取れた」(中野雄二監督)

インカレに向けて守備の徹底を図っているが、守備面は合格点とっていいだろう。

「ここ4試合で1勝3分。負けなくなったという見方をするか、勝てなかったという見方をするかだけなので、最低限の結果ではあると思う」(中野監督)

もちろん、勝ちきるためにゴールが大事だという点も認識している。

「点を取れないというのは、攻撃のクオリティーが上がってないということ。もう少し丁寧にパスをつなげられるのに、というところもある」(中野監督)

まずは残留を確定させ、インカレにははずみをつけたい。最下位に転落してしまった東国大。ただ、10位との勝点差はわずかに2と、まだまだ逆転の可能性は十分にある。それだけに、この流経大戦が大事だ。

前節の中大戦は0-1の敗戦。

「直接対決で相手も負けられない戦いだったため、慎重

になり球際が激しくなるだろうという予測はついていた。また、リスタートが勝負どころだろうと思ってやっていた。中大は前日も、慶大相手にリスタートで点を取っていた。そこはケアをしていたが、マークを外されてしまった。あの1点は悔やまれる」(前田秀樹監督)

警戒していた形からの失点は大きな反省材料だが、思いきりのいいサッカーを続けていきたい。

警告3回：古波津辰希、藤原雅斗(以上流経大)、福島遼、舛田将太、今野太祐(以上東国大)

前期の対戦：流経大4-3(シュート数14-13)東国大

流経大		東国大	
26. 藤原	8. 西谷	19. 佐藤	15. 舛田
3. 田上			5. 鈴木
	27. 塚川	9. 福島	8. 上船
21. 吉田		20. 江坂	21. 今野
	34. 安芸		
	25. 古波津	4. 加藤	10. 若井
18. 今津			2. 大森
2. 湯澤	6. 富田	7. 小玉	12. 国井

専修大学 vs 慶應義塾大学

11月2日(日)
13:50K.O.
フクアリ

ケガ人が続出の専大。苦しい状況の中、前節は国士大との一戦だったが、

「仲川輝人(4年)が大きなケガをして動揺している部分がある。そこの切り替えがまだできていない。前半の失点がなかったら、もっとうまく試合を運べたと思う」(源平貴久監督)

前半に先制点を奪われたが、それでも後半には逆転。このまま試合を終えることができればよかったが、試合終了間際にまさかの失点。

「逆転した後も相手の流れを止められずに、ゴール前までボールを運ばれてしまったところはもったいなかった」(源平監督)

痛いドローとなってしまったが、それでも順大との勝点差は3ポイント。最終節に直接対決が残っているだけに、そこまで可能性を持って迎えたい。

「まだ優勝を狙える試合数と相手がいるので、あきらめずに戦っていきたい」(源平監督)

後期、なかなか思うような結果を出せない慶大。現在の順位は6位とインカレ出場まであと一歩のラインだが、前節の流経大との一戦は0-0の痛み分け。

「勝点3がほしかったが、最後のゴール前での攻めでひ

と工夫や迫力が必要だった。得点がここ数試合足りないと思う」(須田芳正監督)

17節、19節と、最近3試合での2試合は0-0のスコアレスドロー。守備の安定は今後に向けてプラス材料だが、最後の決定力の部分はしっかりと上げていかないと、ここから先も厳しい戦いになってしまう。

「一戦一戦、全力で戦うのみ。チーム一丸となって頑張る」(須田監督)

警告3回：萩間大樹(専大)、溝淵雄志、山浦新(以上慶大)

前期の対戦：専大2-2(シュート数6-9)慶大

専大		慶大	
5. 小口	20. 中村	7. 川田	23. 飯高
6. 河津		17. 山本	5. 並木
	40. 後藤		18. 浅間
1. 福島		7. 北出	9. 山川
	8. 星野		8. 山浦
3. 萩間		27. 黄	2. 久保
2. 北爪	18. 東	10. 端山	11. 増田